

平成27年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、その改善を図る。
 - ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
- *本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

(3) 調査内容

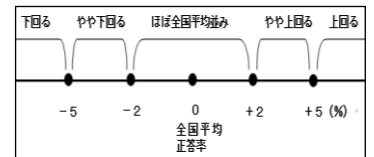
- ① 教科に関する調査（国語、算数、数学、理科） ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 平成27年4月21日(火)

2 可児市における調査結果の概要

(1) 可児市の傾向について

- 全体的には、小学校は、全国平均をやや下回り、中学校は、ほぼ全国平均並みでした。
- 小学校国語A（主として知識）では、全国平均を下回りました。
小学校国語B（主として活用）では、全国平均をやや下回りました。
小学校算数A（主として知識）では、全国平均をやや下回りました。
小学校算数B（主として活用）では、全国平均をやや下回りました。
小学校理科では、では、全国平均をやや下回りました。
- 中学校国語A（主として知識）では、全国平均をやや下回りました。
中学校国語B（主として活用）では、ほぼ全国平均並みでした。
中学校数学A（主として知識）では、全国平均をやや下回りました。
中学校数学B（主として活用）では、ほぼ全国平均並みでした。
中学校理科では、ほぼ全国平均並みでした。



(2) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 調査項目ごとに、全国と当市を比較すると、よくできている項目と課題となる項目は、ほぼ一致します。

○課題となる特徴的な設問は、次の8点を挙げることができます。

（「」内は、設問の概要や出題の趣旨 （ ）内は、評価の観点）

[小国]A 「コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」（読む能力）

[小国]B 「文章の要旨をまとめて書く」（国語への関心・意欲・態度・書く能力・読む能力）

[小算]A 「分度器の目盛を読み、 180° より大きい角の大きさを求める」

（数量や図形についての技能）

[小算]B 「四捨五入して千の位までのおよその数にして計算する」（数量や図形についての技能）

[小理] 「析出する砂糖の量を分析するためにグラフを基に考察し、その内容を記述する」

（科学的な思考表現）

[中国]A 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」（言語についての知識・理解・技能）

[中数]A 「等式を目的に応じて変形することができる」（数学的な技能）

[中数]B 「事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する」

（数学的な見方や考え方）

<課題解決へのてだて>

- 小国語Aでは、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや書く学習活動を取り入れて指導します。その際、著作権を尊重し、保護することについても留意します。
- 小国語Bでは、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容などに着目し、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方でもとめることができるよう指導します。
- 小算数Aでは、「角の大きさの見当をつける」「角の大きさを測定する」「角の測定の結果を振り返って確かめる」の各活動を関連付けて角の大きさを測定できるように指導します。
- 小算数Bでは、数直線を用い、「切り上げ」「切り捨て」「四捨五入」の方法で見積もった結果と実際の数の和との大小関係を視覚的に捉えながら話し合う場を設け、考察するよう指導します。
- 小理科では、水溶液を冷やすことで溶かした物が結晶となって水溶液中から出てきたり水溶液の温度が上昇することでその結晶が見えなくなったりすることを繰り返し観察し、実感を伴って理解できるように指導します。
- 中国語Aでは、日常生活で使うことの少ない語句について指導する際、実際に使われている場面を取り上げてその意味を理解し、短文を作ったり別の表現で言い換えたりする学習活動を行いながら語句の意味や用法を指導します。
- 中数学Aでは、ある文字について解くことの意味を理解できるような場面を設定し、立式したり式を変形したりすることができるよう指導します。
- 中数学Bでは、関数関係を根拠として事柄が成り立つ理由を説明する活動を取り入れ、日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、数学的な表現を用いて説明できるように指導します。

(3) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、本市もほとんど全国と同様の傾向を示しているといえます。

その中で、全国平均と比べて、好ましいと考えられるもの(小中とも全国平均より5ポイント以上よかった項目)について、以下に示します。

- 「(27) 今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」の合計が、小学校で17.5ポイント、中学校で30.0ポイント上回っていました。学校と地域と家庭が連携して取り組んできた成果が脈々と続いていることを数値が示しているといえます。
- 「(22) 学校の授業の予習をしている」では、小学校で5ポイント、中学校で12ポイント上回っていました。

学力テストの結果の上位者(全ての科目で8割以上の正答率)は、(1)「朝食を毎日食べる」で全員が「1(当てはまる)」と回答しています。上位者と下位者(平均正答数の半分以下の正答)とを比較すると、携帯電話やスマートフォンの所持率や使用時間に大きな差が見られるなど、幾つかの設問で回答に大きな差が出ています。

これまでの調査とともに、本調査結果を今後の指導の改善を図る資料として活用していきます。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- 本調査において、正答率が高い問題及び低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- 各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを活用する学習を充実します。また、「わかる、できる授業」となるように岐阜県が重視している「3つの見届ける(実態を見届ける・学習状況を見届ける・定着状況を見届ける)」を確実にを行う授業を目指して取り組んでいきます。
- 引き続き、『家庭生活5つのポイント』を活用して、保護者に「学力」と「児童生徒の意識・生活面」とのつながりについて伝えていきます。「①生活のリズムを整える、②時間を活用する、③ふれあう時間をつくる、④よさを認め励ます、⑤地域との関わりを深める」ことで、家庭における基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図ります。